

気仙地区漢方 Forum

12/4 (水) 大船渡プラザホテル 1F 鳳凰の間

講師：岩手医科大学 緩和医療学科 助教 青木 優子 先生

座長：岩手県立大船渡病院 緩和医療科長 村上 雅彦 先生

演題名：痛みの漢方

共催：気仙医師会・気仙薬剤師会・株式会社ツムラ

痛みには侵害受容性痛・神経障害性痛・心因性の痛みなど様々な痛みに分けられ、治療法として神経ブロックを始め、NSAIDs・アセトアミノフェン・三環系抗うつ薬・オピオイド等を使用する。しかしながら最近の新薬を処方しているにもかかわらず、どうしても痛みのコントロールがつかない患者がいる。そのような場合、漢方薬という選択肢があれば少しはお役に立てるのではないかと思う。

今回、腰痛・肩こり・頭痛・めまい・上肢のしびれや痛み・膝痛・口腔粘膜炎に対する漢方薬を紹介する。

<腰痛>

急性期：・薬甘草湯＋疎経活血湯（根性痛）、・薬甘草湯＋治打撲一方（寝返り）、・薬甘草湯＋桂枝茯苓丸（寝返り）

慢性期：八味地黄丸、牛車腎気丸、苓姜朮甘湯、疎経活血湯、麻杏・甘湯それぞれに温めて痛みをとる附子をプラスする

<肩こり>

・根湯がベースで胃腸が弱くて飲めない人は桂枝加・根湯（桂枝湯＋・根湯二分の一）

<頭痛>

呉茱萸湯、・根湯、五苓散を中心に処方

その他、風邪を引いて頭が痛い時に川・茶調散、冷え性のある人に当帰四逆加呉茱萸生姜湯、血圧が高くて、午前中頭が重い方に釣藤散を処方する

<めまい>

回転性のめまいには五苓散、立ちくらみには苓桂朮甘湯、ふわふわ歩く時の浮動感には真武湯

<上肢のしびれや痛み>

桂枝加朮附湯や・根加朮附湯＋治打撲一方又は桂枝茯苓丸

<膝痛>

冷たく冷えている・水っぽい方は防己黄耆湯、冷たく冷えている・乾いた感じの方は大防风湯、発赤・腫脹・熱感がある方は越婢加朮湯

細かい血管が皮膚に見えるような場合は桂枝茯苓丸加・苡仁をプラスする

<口腔粘膜炎>

半夏瀉心湯、桔梗湯を処方する

50ml くらいの湯飲みに溶かした後、その溶液をひとくち口に含んで、口の中の粘膜全体に行き渡るように5秒以上うがいしてから飲み込ませる。口の中の粘膜に十分なじませることが重要である